

専念寺通信

専念寺通信

四月号 (NO. 104)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

春の彼岸が終わり、4月、あちらこちらで桜が咲きはじめ、そして入学式の季節が始まりました。皆さまの身内でも、お子さん、お孫さんが入学された方がいらっしゃるかと思います。花粉も今年はたくさん飛んでいるようです。おかわりなくお過ごしですか。

☆春の彼岸

今年のお彼岸は、天候の不順な日がつづきました。朝のうちに強い雨が降り風が吹き、そして午後からは晴れてきたり、また、一日中曇りでいまにも降り出しそうな寒い日もあり、お墓参りの檀家さまも、自宅を出ようとしてあきらめた方が多くいらしたのではないかとお察しいたします。それでも7日間のあいだに延べ261件の方が大玄関の芳名帖に記帳してくださいました。日によってダウンジャケットを着ている方がいたり、半袖の方がいたり、まさしく「暑さ寒さも彼岸まで」のことば通りの1週間でした。

奥さまを亡くされ、「いや、私は大丈夫ですよ。」と元気な声で言いながらも目に光るものがあふれる80代の男性、いつもひとりで静かにご主人のお墓参りをする女性、お孫さんふたりが同時に小学校に入学するとおっしゃる檀家さま(息子さんと娘さんの子が同じ年)、入院



中のご家族について心配そうに話していく方、今年もたくさんのお檀家さまと貴重な時間を過ごさせていただきました。みなさまは、本来はお墓にいたいせつな人に会いにいらっしゃるのですが、その折りに私共も玄関でいろいろなことを聞かせていただき、笑わせていただき、勉強させていただいております。お



中日でしたか、1歳半になる私共の孫が父親とサッカーボールで遊んでいたところ、わざわざその様子を写真でうつしてくださった檀家さまもいらっしゃいました。公の行事の際に、私事で檀家さまのお手をわずらわせ恐縮すると同時に、とてもありがたく思いました。実は2月17日にもうひとり、男の子が生まれました。いまはとてにぎやかな専念寺です。

彼岸の明けの夕方、墓所をゆっくりと歩くのが私共のひとつの習慣です。一年に何度か、本当に見事な花の庭を見るこ

とができるからです。花束をもとめ、それを抱え、電車に乗り、バスに乗り、そしてお供えされたみなさまの大事な時間と思いのこめられた花だから、営業用にプロのつくった、どのような花の群れより美しいのです。みなさまのあたたかいお気持ちはきっと亡くなられた方に届いていることと思います。

☆小さなお知らせ: 専念寺のスタッフが少し変わりました。昨年末より、娘婿の小沼久志が月・火・水に、週の後半の木・金・土を清水美穂が、電話や玄関での檀家さまの対応をさせていただいております。まだまだ未熟なスタッフではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

☆もうひとつの小さなお知らせ: 庫裏の廊下の奥に置いてある「いのちの募金」の集計が終わりました。ほかに「ユニセフ」と「国境なき医師団」の募金箱もあり、わかりにくかったこと、お詫び申し上げます。7915円を浄土宗東京教区青年会に寄付いたしました。領収証を募金箱の下に貼っておきます。お参りの際にどうぞご覧ください。

暖かかったり寒かったり、みなさまどうかお身体大切にお過ごしください。

平成21年4月1日 大黒

